

ピースウィンズ・ショップから

新しいブランドができました

霧ノ風珈琲をご紹介します！

暦の上ではもう春となりましたが、暖かい日よりが待ち遠しい日々が続きます。そんな日は家でゆっくりと香り豊かな東ティモールコーヒーを楽しむひとときはいかがでしょうか。

昨年、楽天市場に新しくオープンしたピースウィンズの新ブランド「完熟手摘み 霧ノ風珈琲」では、東ティモールの雄大さや現地感を大切にしたパッケージに一新し、有機JASマーク付きの東ティモールコーヒーや、東ティモールとアジアのコーヒーが巡り合って生まれた「霧ノ風アジアブレンド」など、これまでにない商品を取り揃えて販売しております。

これまで東ティモール・ピースコーヒーをご愛飲いただいているみなさまに、霧ノ風珈琲を知りたい方へ、期間限定で特別価格にてご用意しました。

東ティモール・レテフォホの大地が生み出した、豊かな香りと繊細な味わいを東ティモールの風にのせてお届けいたします♪

コーヒーと相性がぴったりの冬季限定のフェアトレードチョコレートも、お買い求めやすい価格でご用意いたしましたので、ぜひコーヒーと一緒にお楽しみください。

詳細は同封のご注文用紙にてご確認ください。

お電話での注文もお受けしております。

TEL:03-6438-9403 FAX:03-5786-7782

年賀はがき寄付キャンペーン

書き損じはがきを国際支援に

お手元にある書き損じ・未投函はがきが、PWJへの活動の寄付になります。個人や学校、職場ではがき収集のよびかけをぜひお願い致します。お申込みは不要です。直接、はがきをPWJ東京事務所までお送りください。

■送り先

〒107-0062 東京都港区南青山3-8-37 第2宮忠ビル7F
ピースウィンズ・ジャパン「年賀はがき寄付」係

※例えはがき60枚(3,000円相当)で、スーダンで人びとが安全な水を確保するための井戸を修理する工具1セットになります。

チャレンジ大募集中！

PWJのために、「寄付を集める人」になってください。

「東京マラソンで約3年ぶりのフルマラソンにチャレンジ！」 「ツライけど、禁煙チャレンジで途上国支援！」 「3年後の65歳でバイクで日本一周」など、いま、自分の目標を掲げ、達成へのチャレンジを通じてPWJのために寄付を集めてくださる人が増えています。

現在(2011年2月)、PWJを応援する29件のチャレンジ、316件の寄付件数、約100万円の寄付が集まっています！

あなたならではチャレンジを設定し、それに共感した人が、「寄付」というカタチで応援してくれます。誰もが気軽に寄付を集められるポータルサイト「Just Giving Japan」、登録は無料で簡単。ぜひご参加ください！

登録はコチラから▶ <http://justgiving.jp/npo/89>



霧ノ風珈琲のご注文は、
<http://www.rakuten.co.jp/kirinokaze/> から

通常のピースコーヒーのご注文は、
<http://pwshop.ocnk.net/>
からどうぞ

※霧ノ風珈琲の収益はPWJの国際支援活動に活用されます。

PWJの活動にご協力ください

※認定NPO法人のPWJへの寄付は、税金控除の対象になります。

【郵便振替】

口座番号：00160-3-179641

加入者名：特定非営利活動法人

ピースウィンズ・ジャパン

※特定の地域・活動へのご支援の場合は、通信欄に国名等を明記してください。

【銀行口座】

銀行名：三井住友銀行青山支店

口座番号：普通 1671932

口座名義：特定非営利活動法人

ピースウィンズ・ジャパン広報口

※銀行からの寄付は、PWJの活動全般へのご支援として活用させていただきます。※領収書が必要な場合はご連絡ください。ご連絡がない場合、銀行振込ではご住所が分かりませんので、領収書を発行できません。

支援のプロを、
世界の現場へ



降り続く豪雨、 家に帰れない

—スリランカ 洪水被災者緊急支援—



配布する食糧を舟で運ぶ



食糧配布時に集まる避難所の人びと

年末から、やむことなく降り続いたスリランカ中東部の豪雨は激しさを増し、2011年1月上旬、渇流となって村々へ押し寄せてきた。家屋は浸水し、土砂崩れで道路は封鎖されるなど各地で被害が相次ぎ、人びとは避難所へ駆け込んだ。1月中旬の時点で、100万人以上が被災し、30万人が避難所での生活を強いられた。

東部トリンコマレ県のピースウィンズ・ジャパン(PWJ)事務所には、支援を訴える声が相次いだ。「浸水で、PWJが支援してくれた家畜はみな死んでしまった」「栽培していた農作物もすべて台無しだ」。日を追って大きくなる支援要請の声に、PWJはニーズ調査を急いだ。

1月12日、トリンコマレ県ムトゥール郡の郡長から、東部で合計5千名以上の避難所にいる人びとが、物資配達の手段がないために支援が届かず、その日食べるものが足りないなどの一報を受け、PWJは緊急食糧支援を開始した。PWJスタッフがパンや豆、魚の缶詰など、現地の人びとのニーズを反映した食糧を避難所に持ち込むと、避難生活を強いられて緊張が張りつめた面持ちの被災者に、ほっとした安堵の顔が浮かんだ。

2009年に内戦が終了したスリランカで、人びとがようやく故郷で生活再建への道を歩みだそうとしていた矢先のことだった。PWJは、緊急の食糧配布や給水事業を実施するほか、井戸の除菌洗浄などの衛生支援などを開始し、スリランカの人びとの自立復興へ向けて新たな道筋を探っていく。



支援のプロを、世界の現場へ

2010年度(2010.2.1~2011.1.31)のPWJ活動一覧

イラク

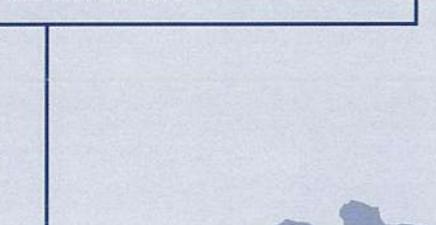
イラク中央政府とクルド政府の境界線上にあり、行政からの支援が遅れている地域での復興支援を続けています。北部ドホーク州にて水施設の修復事業を実施。また、学習環境を改善すべく、ドホーク州とニナワ州での小学校の修復。増築を行いました。2010年11月には、3年半以上かけたハラブジャ母子病院の建設が完了しました。



ハラブジャ母子病院の完成

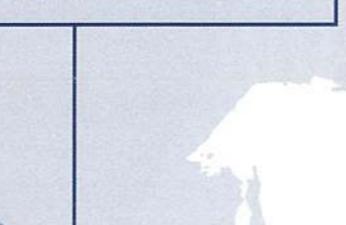
アフガニスタン

アフガニスタンの慢性的な水不足の解消を目的として、水資源を有効利用するため、2003年から水資源調査事業を実施。また、学習環境を改善すべく、ドホーク州とニナワ州での小学校の修復。増築を行いました。



モンゴル

PWJが運営していた児童保護施設「ホッタイル」から「ベルビスト・ケアセンター」に引き取られた子どもたちへの支援をしながら、サリブル川流域で調査のための観測網の充実をはかり、データ回収を継続しました。2011年1月現在、7人がセンターで生活しています。



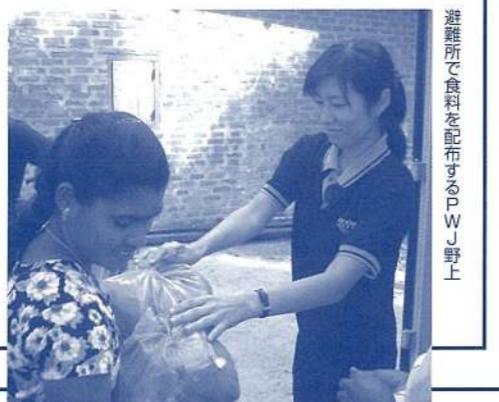
スーダン

2006年の事業開始以来、井戸掘削を中心とした水・衛生事業を続けています。2010年はジョングレイ州ビボール郡に15本の井戸、また同州ボー郡に10本の井戸を建設し、同州の井戸の合計は130本となりました。また、教育分野で小学校の修復や備品の配布を行い、保健医療分野では、ボーセンターハウスに医療用機材を提供しました。



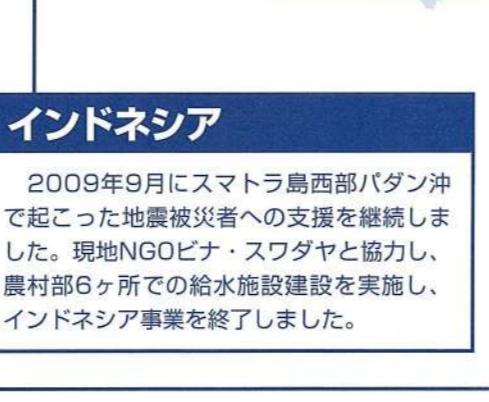
スリランカ

2009年の内戦終結により避難民キャンプから故郷へ帰還する人びとに対し、再定住支援を行っています。東部（トリンコマレ県）では275世帯に仮設住宅の支援、2700世帯に食糧配布、306世帯には生活再建のための仕事道具を配布しました。また、北部3県（キリノッチ、ムラティップ、ワウニヤ）では、401世帯に仮設住宅の支援を実施しました。2011年1月には、洪水被害に対応した支援の実施を決定しました（1面参照）。



インドネシア

2009年9月にスマトラ島西部バダン沖で起こった地震被災者への支援を継続しました。現地NGOビナ・スワダヤと協力し、農村部6ヶ所での給水施設建設を実施し、インドネシア事業を終了しました。



ハイチ震災から1年以上。ハイチはいま

ハイチ震災被災者支援では、首都ポルトープランスとその近郊で、緊急物資配布と学校再開支援を行ってきました。

学校再開支援では、仮設教室の建設や机や椅子、黒板などの学校家具、ボール・セット、教員と生徒用の文具セットの配布を行いました。また、教員を対象とした心理社会サポート講座や、学校支援委員会を対象とした能力強化講座などを実施しています。

事業開始時には、教員、生徒、生徒の保護者、近隣住民で構成される学校支援委員会を各学校に作りました。学校支援委員会は、

自立して学校を運営していく役割を担います。その一助として、昨夏から委員会のために能力強化講座を開始しました。講座は、被災学校が震災から立ち直り、より良い教育を推進していくように、目指す学校像を明確にして、どうやってそれに近づくかなどを具体的に考えていきます。学校支援委員会のメンバーが、自分たちで計画を立てて学校運営に活かしていくことを目的としています。

講座最終日、参加者の一人であるグロ・ジャン校のジャン・ガストン校長は講座を振り返り、「この講座により、私たちは自分たち自身が持っている能力に気づき、それらを活かす方法を学ぶことができた。」と語りました。また、同じく学校の支援委員会メンバー、保護者代表のエロワ・ジャクソンさんは「問題分析や問題解決についての考え方を学べた。私たちが今後、自力で進んでいけるような支援をしてくれたPWJに感謝したい。」と感想を述べていました。

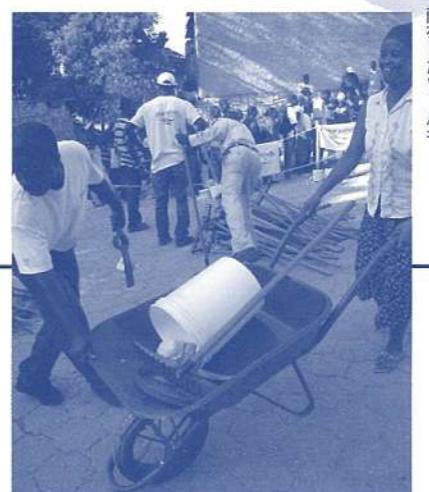
遅々とした震災復興に加え、コレラ感染や大統領選挙に伴う混乱など、ハイチは未だに厳しい状況にあるといえますが、今後も引き続き柔軟に必要な復興支援を行っていく予定です。

能力強化講座の様子



ハイチ

2010年1月の震災に対応し、初期には住居を失った450世帯にテント、1,000世帯にがれき除去のためのツールキットなどを配布。また学校再開支援として、被災した学校を対象に校舎の修復や仮設教室の設置、学用品の配布を行いました。教員や学校支援委員会のメンバーを対象に心理社会サポート講座を開催するなど、ソフト面での支援も実施しました。



配布したツールキット



↑広島ホームテレビにて、PWJの広島県神石高原町での災害救助犬の育成事業への取り組みが特集されました。

→「国際開発ジャーナル」2月号で、PWJ児童職員が取り組むアフガニスタン事業に関する記事が掲載されました。

2月3日テレビ東京「ワールドビジネスサテライト」にて、日本の寄付に関する特集が組まれ、PWJの団体紹介とPWJ山下職員のコメントが放送されました。

国際開発ジャーナル

